

食育情報リンクネットながの総会・情報交換会概要

1, 日 時 平成21年12月18日(金)15:30～17:15

2, 場 所 長野第2合同庁舎 5階共用会議室

3, 参加者 食育情報リンクネットながのの会員など31名

4, 議 題 (座長 鷓飼 信州大学名誉教授)

(1)平成21年「食育情報リンクネットながの」活動概要

(2)平成22年の活動について

(3)平成22年世話人の選出

(4)質 疑



5, 情報交換会概要

(1)食育活動事例発表

「ともに育む活動を・・・農業(食農)体験が育てる子どもの心と体・・・」

(社)農山漁村文化協会 編集局次長 鈴木 敏夫氏

「今までの取組みから来年度予定」

長野市立皐月・長野高等学校教諭

伊藤 幸男氏

ワークセンターYUI施設長

樺沢 徹也氏



座長

リンクネットながのの活動は、企画運営から支援となりどのような活動ができるか心配していましたが、市立皐月・長野高校の教育ファームの取り組みを支援することで活動の軸が見えてきました。市立皐月・長野高校の次年度活動についてどのような協力や支援ができるか検討していきたいと思います。

(2) 会員の食育活動実践情報交換

社団法人 長野県調理師会

・調理師初任者・中堅者セミナーにおいて「食育について」調理師会役員がお話しています。

長野県生活協同組合連合会

・長野県生協連では、大学生協や農政事務所と一緒に食育ランチの取り組みを行い、県内産農産物の宣伝、食事バランスガイドの紹介、大学生の栄養相談を行っています。

長野県衛生部健康づくり支援課

・県食育推進計画の推進
・食育ネットワーク交流会の開催 (H22.2.19 県庁講堂予定)

長野県保健福祉事務所

・平成19年度に策定した「長野県食育推進計画」を推進していくため、関係機関、団体との連携を図るとともに、野菜を食べようキャンペーン事業、信州「食育キャラバン隊」派遣事業等を積極的に展開しています。

長野県食農教育ネットワーク(JA長野中央会)

・各JAで米需要拡大の取り組みの中で、消費者との稲作体験や米料理教室等を通じた食農教育推進に取り組んでいる。
・長野県食育推進会議主催による食育フェスティバルの開催。

NPO 喫茶よりあい処 田舎の親戚

・12月2、4日 保育園、小学校のりんご収穫作業を実施。
・12月23日 自家収穫の大豆で「きなこ」づくり。

各家の正月用餅つき会・つきたて餅の試食会。

- ・1～2月 すいとんづくり昼食会を予定。

更級農業高等学校(小池真理子)

- ・小学生を対象に農業体験講座を実施しています。
(4月～12月、月1～2回)
- ・講師は、本校グリーンライフ科アグリネットワークコースの3年生で、畑で野菜づくり、収穫物で調理を行っています。
- ・本校ホームページでも紹介しています。

バジルクラブ

- ・教育ファームモデル実証、全6回終了。
- ・この事業の成果として親子作詞による、命の歌を作曲、CD化。
- ・地元シェフ達と小さな食の循環を提唱。年4回の料理教室。
- ・地元の安信で美味しい食品を提供。自然食品店、セット宅配、マルシェなど。

榎野金治郎

- ・国の農商工連携支援事業に、是非、食育活動に携わっている方々の知恵と協力を得て、地域の農産品の開発や地域の活性化を推進していきたいと考えております。

なべくら高原・森の家

- ・グリーンツーリズムの活動をすすめるなかで、地元小中学校、都市部の教育旅行で来訪される小中学生向け食育プログラムを用意し対応している。

小布施町耕人舎の会

- ・野菜づくり学習会の開催

耕人舎の会が窓口となり、町内にお住まいで会社を定年退職された方や、新しく移り住んでこられた方など、これまで農業と縁遠かった方むけの、野菜の作り方などの教室を毎月開催しています。今年で3年目になりますが、約30人の方に参加いただいております。農家の方が振興公社に卸す作物は価格の面からどうしても果樹が中心となりますが、こうした方たちが野菜を卸すことで、振興公社の直売所も棚が充実しています。

生業としての農業ではありませんが、こうした広い意味での農業をする人が

増えることで、農産物を身近なものとして捉える気持ち、食への関心が高まってい
き、また本人たちも定年後をいきいきと過ごせています。先日の今年最後の例
会では「今まで土に触ったこともなかったが、はじめて育ててみてとても楽しか
った」といった声がきかれ、皆さんで喧々諤々とおしゃべりをしながら楽しんで
います。

・町収穫祭でのふるまい出展

10月に小布施町の収穫祭である緑のかけ橋まつりに、町と協働で出展しまし
た。テントの下に畳とリンゴ箱で農家のお茶飲み場をつくりだし、手作りのおこ
びね(お茶請け)と昔おこわのふるまいをおこなったところ、2日間で1000人弱の
方が来訪されました。

ただ、お茶を飲んでいっていただくだけではなく、ふるまったおこびねの作り
方と私たちの活動を記したプチレシピ集をお渡しすることで、その場だけでな
く、家に帰ってからも食育に関心をもっていただける工夫をしました。町内、町
外、県外あるいは都会住まいの方、農家出身の方などさまざま人が立ち寄ら
れ、「とても懐かしい雰囲気味わえた」という声をたくさんいただきました。

子ども達の明るい未来を守る会

“幅広い世代に食育を”という事で「大人の食育講座」と「子育て世代の食育
講座」という事で計10回開催致しました。また、一方「トキと暮らせる田んぼつく
り隊」も発足し、冬期湛水不耕起移植栽培という自然の生態型をそのまま利用
した農法の稲づくりも始めました。4ヶ所の田んぼで計46a。試行錯誤もあり収穫
量はあまり多くはありませんでしたが、失われてしまった自然を復活させる仕組
みを学ぶことができ、素晴らしい体験ができました。

この素晴らしいお米づくりの体験を、若い人々に、特にこれから教師になろう
としている方、又、今教師をされておられる方々には是非体験して頂きたいと思
います。

青少年への「いのちの教育」が叫ばれている中で、まず教師自身が「いのち
の仕組み」を学ぶことが最優先と思います。

「いのちの仕組み」「大自然の仕組み」を学ぶ場として今後多くの方々に参加
して頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。